

平成29年度11月定例記者会見 会見録

日時 平成29年11月17日（木）午後2時00分～2時25分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、今月21日から開催されます、市議会定例会議で提案させていただく補正予算についてでございます。主な内容といたしましては、「相模原市子ども・若者未来基金」の設置がございまして。この基金を設置することにより、子どもの貧困対策や学力の保障などの取組のほか、子育て支援や若者の自立支援などを長期的・安定的に進めてまいりたいと考えております。このほか、経済的に厳しい環境にある子どもたちが小・中学校へ入学する際の準備金を従来の約2倍に増額するための経費や、小学校への空調整備を進めるための設計等委託費、さがみはらグリーンプールの設備修繕等に要する経費など、一般会計予算におきまして、総額8億6千万円の補正予算を計上させていただきます。

次に、ふるさと納税の返礼品についてでございます。本市において、ふるさと納税の取組を始めてから約1年となりますが、より魅力的な内容となるよう返礼品の追加募集を行い、新たに43品目を加えることができる運びとなりました。12月1日からは、全体で100品目に拡充いたします。具体的には、SC相模原 川口選手直筆のサイン入りミニサッカーボールなどのホームタウンチームのグッズや、段ボール家具（子ども用の机やイス、収納箱）などのトライアル発注認定製品、また、ワインや中華まんじゅうなど、市内産の原材料を使用した特産品等、多くの皆様に自信を持っておすすめできる返礼品を揃えることができたと思っております。今後とも、本市の魅力を全国に発信する有効な手段として、ふるさと納税を活用してまいります。

なお、こうした寄附のうち、返礼品代などの事務経費を除いた3分の1程度を「相模原市子ども・若者未来基金」へ積立て、新たな給付型奨学金の原資にも充てていきたいと考えております。

続きまして、12月3日から始まる障害者週間に合わせて実施する取組等についてでございます。12月3日（日）には、あじさい会館で、「相模原市障害者週間のつどい」を開催いたします。この事業は、障害の有無にかかわらず、誰もがお互いに人格と個性を尊重し支えあう共生社会を目指すとともに、広く市民の皆様へ、障害への理解を深めていただくため、昨年度から実施しております。今回は、小・中学生等から募集した「心の輪を広げる体験作文」や「障害者週間のポスター」の入賞者表彰式のほか、盲導犬とともに国内外で活躍する視覚障害のある声楽家が、

子どもたちとの合唱を披露するなど、音楽を通じて共生社会の大切さを伝えます。そのほかにも、障害がある方の作品展や、障害者スポーツへの理解を深めるための写真展等が開催される予定となっております。また、本市における共生社会のキャッチフレーズ「共にささえあい 生きる社会」をイメージして、女子美術大学の学生 加藤 乃梨佳さんがデザインしたラッピングバスが、今月29日（水）から来年2月末まで、市内を運行します。運行初日には、ラッピングバスの出発式を市役所本庁舎 正面玄関前広場で行いますので、ご都合がございましたら、是非取材をお願いいたします。

続きまして、来週23日（木・祝）に市立博物館で開催する「宇宙フェスタさがみはら 2017」についてでございます。このフェスタは、宇宙科学に関心をもってもらうことを目的に実施するもので、JAXAの研究者による月探査の最新情報についての講演会や、宇宙フェスタ特別バージョンのプラネタリウムの上映、「宇宙の夕べ」と題した桜美林大学 音楽専修学生の生演奏と宇宙映像とのコラボレーション、反射望遠鏡を使った月面観察など、様々なアプローチで宇宙の魅力を感じていただけるイベントを行いますので、多くの方にご来場いただければと思います。

私からは以上でございます。

（記者）

教育長にお聞きしたいのですが、12月補正予算案として提出している小・中学校へ入学するお子さんへの就学援助金の引き上げ等は、国の改定にあわせて行うものですか。

（教育長）

その通りです。単価改定がありまして、今年度の当初に対応している自治体もございます。

（記者）

支給金額は全国一律ですか。

（教育長）

その通りです。

（記者）

教育長にお伺いします。相模原市では、市内の小・中学校について学校規模の適正化を進めていると伺っており、青根の小・中学校についても、近隣の小・中学校と統合する案が教育委員会の方から出ていると聞いております。しかし、火事が原因で校舎が消失してしまった青根小学校について、学校規模の適正化を理由に他の小・中学校と同じように統合するというのは理解しが

たいのですが。

(教育長)

青根小・中学校につきましては、児童・生徒数が非常に少なくなっている状況について、平成27年度に地域の振興協議会が中心になり、子どもたちにとって望ましい学習環境の実現に向け、活発な議論が行われてきたとのこと。しかし、地元では多様な意見があり、アンケートも実施したが、意見としては一本化できないとのことから、昨年11月に協議会より、検討組織の設置と、協議の際に、市の考え方を整理して地域に示すことを求める要望書が提出されました。この要望を受け、今年度に入り、地元や教育委員会で構成する検討組織を立ち上げ、これまで2回ほど協議を行ったところでございます。

(記者)

先日11月1日に行われた協議会を取材したのですが、圧倒的に反対する保護者、自治会の方が多いように感じました。これについてはどのように考えますか。

(教育長)

現在行われている協議会の中で、統合に強く反対している方がいらっしゃるの事実ですが、地域の保護者や関係者に行ったアンケートの中では、青根小・中学校の統合については多様な意見があり、賛成と反対が拮抗している状況と承知しております。地域振興協議会の代表の方とは、今一度、地域の意向を聞く機会を設ける相談をしているところです。

(記者)

地域の方から上がっている声というのは、子どもが少なくなるから統合、という考え方ではなく、子どもが少ないなら、どのようにして子どもを増やすのかを考えてほしいという事です。例えば小規模特認校の導入について、統廃合を既定路線とするのではなく、もっと柔軟に研究してみる必要もあると思っております。

(教育長)

通学区域外から入学できる特認校についてですが、八王子市で導入されていると承知しており、本市の職員が八王子市に、導入についてのメリット、デメリット等のお話を伺っております。特認校への就学にあたっては、通学区域外であっても、児童・生徒が特認校に自力で通学することが条件のひとつとなっていることから、現在の青根小・中学校の立地は、特認校として指定するには大変厳しく、地域の方にはそのように説明をしております。

(記者)

特認校を導入している自治体は八王子市だけではなく、小田原市や厚木市、全国各地でも多く

行われています。八王子市だけの事例で結論を出すのではなく、もう少し研究が必要なのではないでしょうか。

(教育長)

特認校制度については、地域の方に意見を伺いながら、再度、委員会の中でも検討していきます。

(記者)

ふるさと納税についてですが、昨年ふるさと納税返礼品をスタートした時、市の職員が一生懸命努力して良いものを揃えた事で、相模原の技術力や、農産物の豊さなどをアピールできたと思います。そのような中で、総務省からの高額返礼品の見直しを指示する通知により、高額返礼品は取りやめると判断した事は非常に残念に思っております。野田総務大臣が就任した際、ふるさと納税の返礼品の裁量は自治体に任せるとの発言があり、高額返礼品を加えることも可能になったと思うのですが、相模原の最も高い技術力のシンボルともいえる高額返礼品は復活させないのですか。

(市長)

国が地方のアピール、経済成長、また自主財源確保という点から、ふるさと納税制度をスタートさせましたが、過度な競争により返礼品の金額が天井知らずに高くなったため、総務省が見直しを指示した経過があります。しかし、結局は我々自治体がどのような目的でふるさと納税の返礼品制度を使うか、という点が重要と考えており、相模原市には素晴らしい特産品や、使っただきたい製品がある訳ですから、この制度をうまく利用しながら、自治体の知名度アップや財源確保など、多様な目的に資するようになっていきたいと思っております。今回は返礼品を43品目追加し、計100品目といたしました。全部素晴らしい製品です。

(記者)

今回、廃止された高額返礼品のうち、アナログレコード針は、世界的にも面白い技術です。ピートルズの生まれ故郷のイギリスで売れたぐらいですから。

(市長)

技術的な価値のある製品についてのニーズや、全国的な返礼品の状況も含めて判断し、返礼品の充実に努めていきたいと思っております。

(記者)

相模原市は政令指定都市ですので、返礼品について国ときちんと向き合うくらいの気概を持つ

て事を進めてほしいと思います。

(市長)

11月15日に、九都県市首脳を代表して「地方分権改革の実現に向けた要求」を国へ提出してまいりました。地方交付税の適切な運用や、新しく導入予定の森林環境税の配分、また消費税の地方分を自治体間で配分する清算基準の適正化など、九都県市で決議した内容や、地方自治体の実情を、国へ訴えてまいりました。官房長官は、地方の実態も理解できるが、国も財源的な問題があると言っていました。やはり我々も言うべきことはしっかり言わせてもらいたいと思っております。ふるさと納税の件については、国に対して遠慮する必要はありませんから、しっかりやっていきたいと思っております。

以 上